

町議会だより

おおえ



2013.10.24

No. 129

「良い子は交通安全マーチでルールを守ろう」

平成25年度大江町交通安全町民大会

平成24年度決算認定	2	議員研修会	13
議会構成決まる	4	7・18豪雨災害地視察	15
一般会計補正予算	6	私もひとこと/議会の動き/編集後記	16
一般質問/5人が町政を問う	8		

平成24年度決算を認定

歳入総額 (一般会計・特別会計)

歳出総額 (一般会計・特別会計)

78億6,152万円 74億8,164万円

(内・一般会計 歳入 53億659万円 歳出 50億2,206万円)

歳入総額－歳出総額 = 3億7,988万円

業9千98万円、障害者福祉事業1
主な歳出は、庁舎耐震改修等事

歳出

主な歳入は、町税8億476万円、前年度対比6・8%の減、地方交付税23億7千57万円、前年度対比4%の減でした。

歳入

平成24年度一般会計歳入決算額は53億659万円、前年度対比1%の減、歳出決算額は50億2千206万円、前年度対比0・8%の減でした。

一般会計



布施正昭委員長

平成25年度第3回定例会は、9月5日から13日までの9日間にわたり開催されました。

平成24年度決算については、本会議で町長の説明を受け、監査委員の決算審査報告が述べられた後、決算特別委員会に審査を付託しました。

決算特別委員会(委員長／布施正昭、副委員長／土田勵一)にて、一般会計並びに特別会計7件、及び水道事業会計について3日間(11日・12日・13日)審査を行い、議論した結果「認定すべきもの」と決しました。

本定例会では24年度決算認定をはじめ条例の制定など26議案、請願1件、要請2件、計29件が提案され、いずれも全会一致で原案のとおり可決しました。

特別会計・水道事業会計		
	歳入(収入)額	歳出(支出)額
国民健康保険	11億1,411万円	10億4,289万円
後期高齢者医療	1億332万円	1億83万円
介護保険	9億5,959万円	9億4,855万円
宅地造成事業	2,162万円	2,062万円
簡易水道事業	739万円	622万円
公共下水道事業	3億568万円	2億9,810万円
農業集落排水事業	4,322万円	4,236万円
水道事業	2億7,062万円	3億2,770万円

※水道事業の不足額については、当年度消費税資本的収支調整額、過年度損益勘定留保資金、当年度損益勘定留保資金で補てん。

億4千558万円、町道新設改良事業3億3千901万円、町営住宅建設事業8千556万円、公民館施設整備事業4千万円、土木施設災害復旧事業1億1千663万円などです。
歳入歳出差引額は2億8千453万円。歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源は5千883万円、実質収支額は2億2千570万円でした。

予算はどつ
使われたのか？
歳出

結城議員 町有林14箇所のうち漆の栽培状況は。

農林課長 軽井沢、材木、檜山地区の町内3箇所であり、状況を見て下刈りしている。

安彦議員 優良景観形成補助金296万円の内訳は。

政策推進課長 良好な景観を形成するための屋根の塗装に対する補助金である。

結城議員 デマンドタクシーの運行時間は利用しやすい時間帯なのか、また登録人数は。

政策推進課長 上り4便、下り4便である。

平成23年に試験運行し、利用者の要望や意見を聞き、平成24年に反映した。

今の段階で不備という意見はない。

登録人数は男性56名、女性99名である。



交通弱者を救うデマンドタクシー

伊藤議員 雪下ろし等費用323万円の内訳と申請者数は。

健康福祉課長 高齢者を守るための、屋根の雪下ろしや玄関の除雪費用である。

事前に登録された世帯は年3回

まで利用でき、1回上限2万5千円で支給額は1割自己負担、9割を町に申請し、1ヵ月毎に算定し支給している。

該当世帯数は106世帯、雪下ろし101件、玄関の除雪36件である。

安食議員 除雪機械購入費75万円の内容は。

農林課長 県からの払い下げ11トン級ドーザを柳川温泉に配備した。災害時や除雪用に活用する。



柳川温泉に配備された11トン級ドーザ

松田議員 月布川水質調査委託料42万円の内容は。

農林課長 どの程度、月布川が汚染されているのか5箇所20項目

にわたり水質調査を行った。

放射性物質であるヨウ素、セシウムなどは採取されず、きれいな川であった。

土田議員 プレミアム付き商品券はこれまで20%お得であり大変好評であったが、今回は10%であったため評判が悪い。今後も続けるのか。

政策推進課長 事業内容については商工会にまかせているが、冬期分は20%に戻す方向で検討している。

この事業については平成25年度で終了し、それに変わる新たな事業を検討していく。

宇津江議員 住民参加型除排雪作業の実績はなかったがその内容については。

建設水道課長 各区長に要項の説明を実施し申請を期待したが、予約の段階までで、結果的に申請はなかった。

除排雪に困っている地区の1世帯当たりの経費が5千円を超える場合、町で負担していきたい。

伊藤議員 放射性物質調査分析委託料51万円の内容は。また、町でやらなくてはならないことか。

総務課長 左沢地区の側溝清掃作

業に先立ち汚泥を検査したが異常はなかった。損害賠償に該当することになれば東京電力に請求していく。

基本的に年1回程度の実施を予定している。

菊地議員 雪下ろし業務委託料92万円と講師謝礼金134万円について伺う。

教育文化課長 1月28日から2月2日における七軒西と本郷西小学校の雪下ろし費用である。

毎年4月から実施している生涯学習の各教室における講師への謝礼金である。



除排雪に困る団地内

まる

副議長に 古城紀夫氏

議長を補佐して頑張ります！



議会活性化に「一歩前進」

議会の活性化として、町民にわかりやすく、明らかな議会活動を行わなければなりません。その一つとして、今回から、副議長を目指す議員が定例会において所信表明を行い、それを踏まえて選挙を行いました。

投票結果

古城紀夫	5票
伊藤慎一郎	3票
土田勳一	1票
白票	2票

◎議員生活

社会経済の進展に対応して、行政が著しく多様化し、専門化してくると、本会議のみではとうてい多数の議案を効率的に処理することは不可能になり、議員もまた、議案内容のすべてに通じることが困難になります。委員会制度はこのような問題を補充し、審議の充実度を上げるために工夫されたものです。常任委員会はその部門に属する町の事務に関する調査を行い議案、陳情等を審査します。

◎総務文教常任委員会(6名)

所管は総務課、政策推進課、教育文化課、税務町民課、出納室です。



後列左から／布施正昭委員 安食幸治委員 宇津江雅人委員
前列左から／小野祐一委員 安彦勉委員長 結城岩太郎副委員長

◎議会広報常任委員会(4名)

総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会より2名ずつ選出された4名で構成されます。議会本会議での議案審議の内容や各委員会での活動報告を町民の皆様にお知らせするのがこの委員会の役割です。

委員会構成

◎議長

小野祐一

◎副議長

古城紀夫

◎総務文教常任委員会

委員長

安彦勉

副委員長

結城岩太郎

委員

安食幸治

宇津江雅人

布施正昭

小野祐一

◎産業厚生常任委員会

委員長

松田敏男

副委員長

土田勳一

委員

菊地勝秀

伊藤慎一郎

古城紀夫

◎議会広報常任委員会

委員長

安食幸治

副委員長

宇津江雅人

議会構成決

◎産業厚生常任委員会(5名)

所管は、健康福祉課・建設水道課・農林課・農業委員会です。



後列左から／伊藤慎一郎委員 菊地勝秀委員
前列左から／古城紀夫委員 松田敏男委員長 土田勲一副委員長

◎大江町監査委員の選任

安藤宏監査委員(十二区)は、平成25年10月4日をもって任期満了となりますが、適任と認め、再任を全会一致で同意しました。

◎議会運営委員会(4名)

議会運営の責任者である議長の諮問機関としての性格があり、会期及び会期延長、議事進行、一般質問、特別委員会設置、議案、動議などについて話し合い、調整したりする、議会を円滑に、しかも効率的に運営するための機関です。

◎大江町教育委員の任命

富樫是行委員(若原区)は、平成25年9月28日をもって任期満了となりますが、適任と認め、再任を全会一致で同意しました。

◎大江町農業委員に推薦

渡邊貞子さん(梨木原区)、鈴木恵理子さん(伏熊区)を、農業委員会委員として適任と認め、再任を全会一致で推薦しました。

委員

菊地勝秀
古城紀夫

◎議会運営委員会

委員長

伊藤慎一郎

副委員長

布施正昭

委員

菊地勝秀
結城岩太郎

◎西村山広域行政事務組合議会議員

安食幸治
安彦勉
小野祐一

◎議会議員選出監査委員

宇津江雅人

◎都市計画審議会委員

伊藤慎一郎
古城紀夫
土田勲一
松田敏男

◎国民健康保険運営協議会

結城岩太郎
布施正昭

一般会計 補正予算

9月定例会において歳入・歳出にそれぞれ4億6千980万円を追加し、一般会計予算を50億4千560万円とする補正予算(案)が可決されました。

入ってくる主なお金

町税

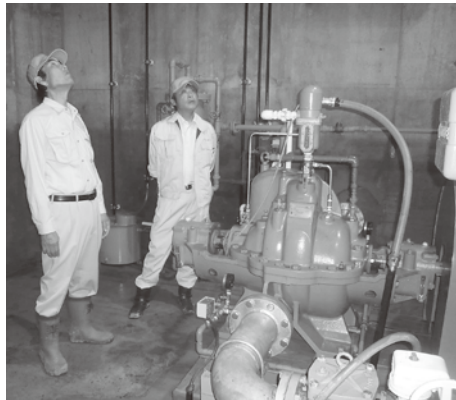
固定資産税 現年課税分(追加) 741万4千円
 (平成25年度の精査によるもの)
 地方交付税 普通交付税(追加) 3千335万8千円

国庫支出金

次世代自動車充電インフラ整備促進事業補助金 466万円
 (電気自動車の急速充電装置設置)
 社会資本整備総合交付金(追加) 1千398万円
 文化財調査費(追加) 3千675万円
 (楯山公園の復旧費)

県支出金

防災拠点再生可能エネルギー導入促進事業補助金 200万円
 (電気自動車の急速充電装置設置)
 浄化槽水環境保全推進事業費(追加) 240万円
 農業費補助金(追加) 5千441万6千円
 (災害復旧事業)



冠水した小見地区の揚水ポンプ室内

財産収入

出損金返還金 261万2千円
 (県労働者信用基金協会解散の返戻金)
 土地開発公社残余財産帰属収入 463万5千円
 (西村山土地開発公社解散のため)

林業費補助金

3千75万6千円
 (災害復旧事業)

繰入金

後期高齢者医療特別会計繰入金(追加) 58万4千円
 介護保険特別会計繰入金(追加) 368万7千円
 財政調整基本繰入金(追加) 5千万円

旬のまちづくり基本繰入金(追加) 133万7千円

繰越金

前年度繰越金(追加) 1億4千657万8千円

諸収入

特定鉦害復旧工事費 110万円

町債

観光施設整備事業費(追加) 6千万円

農地、農業用施設災害復旧費(追加) 1千550万円
 林業施設災害復旧費 600万円

支出する主なお金

総務費

事業用備品購入費(追加) 61万8千円
 (災害の教訓から七軒地区の区長



道の駅おおえに設置される急速充電装置

宅へFAX10台分を設置)急速充電器設置工事費

700万円

(道の駅おおえのトイレ付近に設置、県内全ての道の駅に設置される「やる気—元気」活動支援補助金(追加) 133万7千円

民生費

放課後児童健全育成事業委託料(追加) 52万円
 (指導員2名の処遇改善費)

衛生費

合併処理浄化槽設置補助金(追加) 870万円
 (設置希望者が14名増えたため)
 浄化槽水環境保全推進事業補助金(追加) 240万円

農林水産業費

町単独土地改良事業費補助金

(追加) 4千190万9千円

(公共災害に該当しない130箇所のうち110箇所の単独事業費)

用地費 1千311万5千円

(美郷コミュニティセンター2区画) 林業基盤等整備事業費補助金

(追加) 97万円

(貫見・沢口間の巻淵地区)



土砂崩落した果樹園 (蛭水団地北側)

商工費

特定鉱害復旧工事費

110万円

(大江中向側のリング果樹園が亜炭採掘のため陥没したことによる復旧費)

健康温泉館改修工事費 (追加)

6千万円

(木風呂改修工事等)

土木費

町道認定外道路補助金 (追加)

141万6千円

(6区、貫見、葛沢地区の道路工事) 樹木伐採等業務委託料 142万円

(若原区北斜面、13区京谷看板裏) 月布大城地区の樹木伐採

用地費 (追加) 410万円

(左南・西原線拡張工事に伴う用地買収) 県道改良工事負担金 (追加)

492万円

(大江西川線貫見・沢口間工事の負担金) 物件補償費 (追加) 1千710万円

(左南・西原線拡張工事に伴う建物補償) 山形県急傾斜地崩壊対策事業負担金 (追加) 189万5千円

(12区鹿子沢地区) 都市計画図作成業務委託料

241万5千円

(10路線について将来、廃止に伴う見直し作業委託料)

自治公民館建設費補助金

147万7千円

(諏訪原地区公民館のトイレ改修費)

文化財保護費 (追加) 5千250万円

(楯山公園の豪雨災害復旧費)



水洗トイレに改修される諏訪原公民館



復旧される楯山公園北側の山腹崩壊

測量設計等委託料 (追加) 150万円

土砂排土等委託料 (追加) 340万円

(33箇所の土砂災害区域に二次災害を防ぐためブルーシート設置) 災害復旧工事費 (追加) 1千180万円

(9路線11箇所の復旧工事) 農地、農業用施設災害復旧費関係

測量設計等委託料 (追加) 378万円

(土地改良区に属さない農業施設等の測量設計等) 災害復旧工事費 (追加) 7千160万円

(月布、焼山地区等の農地復旧工事) 林道施設災害復旧費関係

災害復旧工事費 (追加) 4千784万4千円

(小新・楯山線、長畑線のり面工事)

路肩崩落した小新・楯山線



路肩崩落した小新・楯山線

災害復旧費



土田 勵一 議員

わが町の呼び名の統一を

町長

「おおえまち」と指導を行っていく

質問 国からの楯山史跡指定に続き、重要な文化的景観として選定されましたので、観光客が増えるのは間違いありません。古くなつて錆びたり文字が消えかかっている看板等は、補修するか、それとも撤去するか、新たな看板を設置すべきであります。しかし、景観にマッチしない看板は必要ないと思っております。

町の呼び名を正しくPRするために、道路標識・看板・のぼり旗・ポスター・チラシ等、大江町左沢（おおえまちあてらざわ）とひらがなを付けるべきであります。大江町の『ただならぬ』景観を全国に発信するために、積極的なPRと呼び名を示すべきで、町民に対しても、「わが町の呼び名は大江まち（町）です」と啓発を積極的に推進していくべきでは。

町長 昭和34年に合併したときに、総務省から「おおえまち」



わが町の呼び名は「おおえまち」

と正式な名前の呼び方の決裁をいただいた。「おおえまち」と「おおえちよう」の使い分けに難儀をしている。公式には「おおえまち」と決まっているので、対外的、教育的な面からも各般に指導を加えていきたい。各パフレット、看板等においては周知を徹底していきたい。

E・T・C専用のスマート（ミニ）インターチェンジの設置要望

町長

緊急自動車の乗り上げ運動をしていく

質問 平成25年3月定例会にて一般質問を行いました。その後、紙面の見出しに、「E・T・C専用のI・C全国35カ所に新設・国交省が許可」の記事が掲載されておりました。残念ですが、本県の高速度道路関連につきましては、許可や認可はなく、自治体についてもありませんでした。国道287号と458号にE・T・C搭載専用のスマートインターチェンジが設置されると、利便性がアップするとともに、県内地域医療の迅速性と充実度アップに加え、災害救助や企業誘致等にも大きく貢献することに間違いありません。

西村山広域自治体と、白鷹・朝日・大江広域観光推進協議会とも連携し、県と一体となって、国土交通省と「ネクスコ東日本」に、大江町としても本腰を入れて要請していくべきでは。



高速道へのアクセスを強く要望

町長 朝日・白鷹を含め、広域的な観点から「木の沢」からの緊急自動車の乗り上げ運動を展開し始めている。国道287号、458号のアクセスについて、夢物語ではなく、具体化できる草案を作り、運動の入り口には達したいと考えている。



安食 幸治 議員

廃校している小学校体育館を 室内練習場にできないか

町長

現時点では、今までどおり利用して
いただきたい

いと考えております。

質問 現在、大江町では、廃校
になっている小学校が3校あり
ます。その中で一つの体育館の
床を剥がして土の整備をすると、
野球とかテニスなどの「室内練
習場」として活用できないでし
ようか。特に、本郷西小の体育
館は「綱引き」等の練習回数が
多いようですが、比較的安価に
「室内練習場」にできると思い
ます。町長の見解は。

町長 旧本郷西小学校体育館は、
床を抜き室内練習場にすること
は構造的には問題はありません
が、現在、地域の室内スポーツ
の拠点として年間123件利用さ
れている状況にあります。

冬期間のソフトテニス、ゲー
トボール、グラウンドゴルフ等
の利用が想定されておりますが、
いずれのスポーツも体育センタ
ーを利用して冬期間の活動を行
っております。現時点では室内
練習場としての需要を多く見込
めないことから、これまでどお
りの体育館として利用してい



廃校利用の1つの提案

駅前町有地を左沢線存続の ために「SLの基地」にどうか

町長

JR東日本などの関係機関
との協議が必要

質問 中央公民館改築が最優先
になり、駅前町有地の利用が後回

しになりました。5月16日の
「知事と語るう市町村ミーティ
ングIN大江」の中で、JR左
沢線の利用促進について、小中
高PTA連絡協議会の方が発言
されていました。人口減少に
伴う利用者数減少で左沢線存続
が心配とのことでした。

9月7日・8日にJR左沢線
でSLが運行され、多くの見物
客やSLの愛好家が訪れました。
そこで、駅前町有地にSLの
「回転台」をもう一度作って、
山形県内にSLが来たときの
「SLの基地」にしたらという
のが、これから駅前町有地の利
用を検討するとなった場合の私
からの提案です。

「回転台」を作り「SLの基
地」にすることによって、SL
がこの世にある限り左沢線が山
形から線路が続き、存続問題も
解決し、SLを見に来る見物人
で来町者も増え、大江町活性化
にもなると思います。町長の見
解をお聞きます。

町長 駅前の町有地に回転台を
備えた「SLの基地」を整備す
ることは、終着駅にしかできな
いことであり、多くの鉄道ファ
ンが訪れるような大変夢のある
アイデアであります。

現実的に、町有地へ引き延ば
すことはできるのか、左沢線の
他に始発駅の山形駅等にも同様
に回転台を整備しなければなら
ないのか等の課題が出てくる
と思います。

また、左沢駅前整備町民検討
会議より3つの案が報告されて
いることに加え、公共施設の在
り方として全体的、総合的な中
で議論を必要とする内容である
と考えております。



未来に残したいJR左沢線



安彦 勉 議員

スクールバスをもつと福祉に
使えないか
教育長
スクールバスとしては難しい

質問 平成25年7月31日現在で、大江町の年齢構成は0～19歳までが約16%、20～64歳までが52%、65歳以上が32%になっています。

平均世帯人数は左沢地区が3・04人、本郷地区が3・41人、七軒地区が2・30人、大江町地区の平均が3・09人となっています。

このことは、高齢者の1人暮らし、2人暮らしが多くなったと推測しても的外れではないのではないかと思います。そのようなことから、デマンドタクシーを利用できない方はいわゆる「スクールバス」に頼らざるを得ません。

そこで、寒河江市立病院に通院する方も多いと聞いております。乗り換えなしで寒河江市立病院まで、いわゆる「スクールバス」を運行できるような方法はないでしょうか。

教育長 スクールバスの目的は義務教育課程の生徒、児童の登



スクールバスの利便性向上を

下校のためのものであり、支障をきたさない範囲で住民にも供することができるとです。

スクールバスは現在フル稼働の状況にあり、運行は年々複雑化の傾向にあり、緊急時における児童生徒の安全を確保するためにも、ある程度余裕のあるバスの運行を行う必要があると考

えております。
通院する方の足として、寒河江市立病院へのスクールバスの運行は、現段階において物理的にも、人的にも大変難しいと考えております。

質問 次に、福祉の恩恵は老人ばかりではなく、若者にも目を向ける必要があると思います。

それで、左沢高等学校の資料によりますと、在校生288名のうち、列車通学をする者は夏期65名、冬期76名に上るそうです。「スクールバス」を利用する高校生は20名ほどいるとのこと

です。
さて、高校生は「スクールバス」料金100円払っているそうです。そうしますと、往復200円、月に20日通学するとして4、000円かかります。親の負担は相当なものだと思います。

そこで、私はJR左沢線存続のため、また、左沢高校存続のため、町として「スクールバス」の料金を高校生のため安くできないか、あるいは0円にできないか検討をさせていただきたいと思いがすがいかがでしょうか。

教育長 左沢駅から左沢高校ま

での間は、山形交通の路線バスとの併用区間でもあることから、高校生のバス料金の低価格化及び無料化は難しいものと考えております。



JR左沢線を利用する左沢高校生の登校風景



宇津江 雅人 議員

今後の災害対策は

町長

災害の教訓を活かし検討していく

質問 豪雨災害から得た教訓を活かし、より強固な災害対策を構築していく必要がある。

町長 迅速な初動対処は被害を最小限に食い止め、一人でも多くの人命を救えるかを決めると言っても過言ではないと考える。

町長 今年1回目程度の防災図上訓練の実施や、県及び近隣の市が行う防災図上訓練に積極的に研修参加し、さらに迅速な初動対処ができるように備えておくことが必要であると考えている。

町長 今後も各種図上訓練や研修会への参加や訓練を行い、部署ごとの役割確認と初動対処に備えていく。

質問 町地域防災計画に不備が散見されるので早急に見直しする必要がある、初動対処マニュアルの作成については。

町長 本年4月に見直しを行っており、初動対処マニュアルは早期に配布し、周知を図っていく。

質問 災害対策本部員会議に、防災関係機関はどの程度出席されたのか。

町長 消防団をはじめとする関係機関については豪雨当日役場事務室内に詰めていただき、情報共有や連携を図ってきた。

質問 避難勧告・指示を発令する基準として、数値基準を町地域防災計画に定めてはどうか。

町長 見直し後の地域防災計画では、荻野観測局の水位を判断基準として定めている。

質問 久保地区の住民が一時、孤立した状態になったが、救出のため県消防防災ヘリコプターの要請や陸上自衛隊への災害派遣要請の着意はあったのか。

町長 一時的に孤立した点は今後も検証を行い、誘導の手順を定めたい。

孤立者救出のため、県警や消防防災ヘリコプターの出動打診、さらに陸上自衛隊に要救助者がある旨の情報提供を行い、万が一に備えていた。

質問 社会福祉協議会などと連携した一般ボランティアの受け入れ体制の考えは。

町長 災害ボランティアについては、社会福祉協議会と連携をとりながらも、町が中心となって受け入れる体制としている。

質問 今回のような大災害では、迅速な情報伝達手段として防災行政無線はなくてはならないものと考えている。

国、県からの補助事業もあり、活用し、整備してはどうか。

町長 従来のシステムにこだわらず、本町の地理的特性を考慮したもつとも有効なシステムを選定しながら、導入について検討していく。

質問 今後の災害復旧工事の全体計画について伺う。

町長 町道等については優先順位を設けてできるだけ早急に復旧するよう努めていく。

河川や山林等、県等が復旧工事を担う部分については、早期着工に向け取り組む。



山形県 荻野水位観測局



月布川と最上川の合流地点の崖崩れ



古城 紀夫 議員

防災行政無線の整備を問う

町長

有効なシステムを選定しながら検討していく

質問 7月18日の集中豪雨において、月布川や最上川の氾濫で甚大な被害がありました。

住宅の浸水や水道の断水、また、果樹や農作物の被害についても重大な現状であり、町民の不安と悲しみは深刻なものがあ

ります。昭和51年8月6日、大洪水のため、百目木や鹿子沢などが大被害にあっております。

災害に対する対応を真剣に考えていかなければならないと思います。

今回、町の広報車で給水車などの対応について地域ごとに巡回されましたが、聞き取れない方もいて大変不便をされたようです。

緊急対策として、防災行政無線の整備をいち早く進めていくべきだと思います。

豪雨災害だけでなく、地震や火災の発生状況などの情報提供は、住民生活にとってなくてはならないものだと思います。

県でも市町村に防災行政無線の整備について通達がなされたようですので、ぜひ実現されるよう願うところです。

また、町内においても地域防災区などが組織されているところもあり、町全体として地域防災に取り組み、住み良い町をつくることを望みますが考えを伺います。

町長 防災行政無線の整備についてはその他、かかわる事業が多くあるので、整備費用等を考慮した上で、従来のシステムにこだわらず、本町の地理的特性等も踏まえたもつとも有効なシステムを選定しながら導入について検討していきます。



防災行政無線の拡声器

大江西川線貫見、沢口間の道路工事に着工に向けて

7月2日、平成25年度大江町道路整備促進協議会と大江・西川町道路整備促進期成同盟会の総会が開催されました。

1 大江町道路整備促進協議会関連の平成25年度大江町における県の道路事業は次のとおりである。

○大江西川線貫見、沢口間の道路改良工事
○大江西川線滝ノ沢地区のり面工事



三合田地区の未整備区間

○大江西川線三合田地区の道路改良工事
○大江西川線柳川地区大井沢トンネル長寿命化対策
○天童大江線左沢地区桜瀬橋の橋梁補修
○中山三郷寒河江線用地区のり面工事

2 大江・西川両町道路整備促進期成同盟会報告

大江・西川両町長の出席のもと村山総合支庁建設部次長志田孝仁氏を迎え総会を行った後、大江西川線貫見、沢口間の道路改良工事予定箇所や貫見間沢線西川町側の工事箇所などの現地調査を行いました。



沢口地区工事予定の現地調査

西村山地方 議長協議会 議員研修会

平成25年7月3日、河北町総合交流センター「サハトベに花」にて西村山地方議長協議会議員研修会が開催され、一部は河北町商工会が主催され、一部は河北町商工会観光課長、矢作勲氏による「冷たい肉そば（B級ご当地グルメ）によるまちおこし」について講演がありました。

町内の約16店舗で結成された「かほく冷たい肉そば研究会」は県内外さまざまなイベントに参加し、平成23年5月に、県内で初めてとなる「B-1グランプリ」に出展を果たしております。

販売実績として平成23年度は19、590食、平成24年度は25、950食に上り、さらにコンビニエンスストアのローソンと提携し、約6万食を売り上げています。

コンセプトはコシの強い田舎打ちそば、鶏ダシの醤油味の冷たいつゆ、コリコリとした食感がくせになる親鳥のスライスだそうです。



講師：河北町商工会観光課長 矢作 勲氏

二部は、山形大学教授、金子優子氏が「地方議会議員の役割と位置付けについて考える」と題しこれからの地方分権改革、議会の役割、議員に求められる役割等について講演され、今後の議員活動の上で大いに参考となりました。



講師：山形大学教授 金子優子氏

村山地方町村 議会議長会 議員研修

平成25年9月27日西川町役場にて山辺町、中山町、河北町、朝日町、大江町、西川町、大石田町の議員91名及び議会事務局員11名が参加し、村山地方町村議会議長会議員研修が行われました。

講師には元衆議院法制局参事の吉田利宏氏を迎え、「議会・議員のための法律・法政策講座」と題し講話をされ、特に次の点について述べられました。

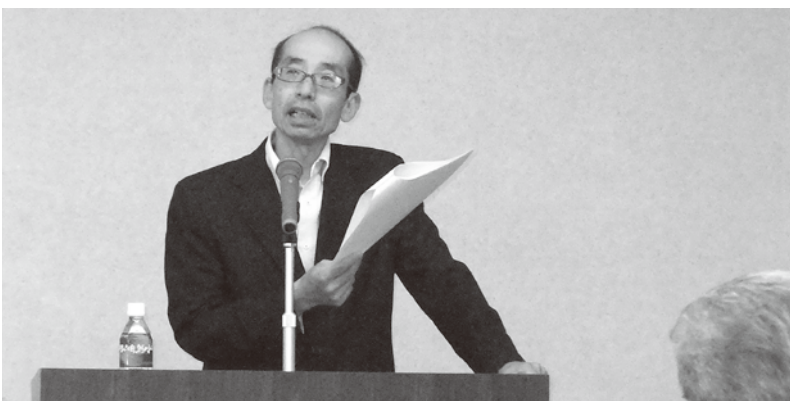
- 一 町議会の役割は議会と住民の一体化した立案機能や住民参加の促進が考えられ、一つの例として、長崎県小値賀町で議員と町民が議会独自の「総合計画」を一緒に作り上げたことを紹介されました。
- 二 議会の政策提言としての付帯決議の利用について、一つの例として、西川町が制定した「空き家等の適正管理に関する条例」の付帯決議を示され、その意味

と重要性について強調されました。

※付帯決議とは？

議決された条約・本案などに関して、施行細則・解釈の基準などを希望意見として表明する決議。法律上の効果を伴わない。

（大辞林第三版より）



講師：元衆議院法制局参事 吉田利宏氏

大江町子ども子育て会議 条例が制定されました

子ども・子育て支援法第77条第1項の規定に基づいたもので、会議委員には、児童福祉関係事務所、教育関係、保護者、学識経験者、一般公募の方々が入る予定です。

平成24年8月に「子ども・子育て関連3法」が成立し、幼児期の学校教育及び保育や地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するため、新たに子ども・子育て支援制度が創設されたのを受け、平成27年4月から予定されている新たな支援制度の本格実施に向けて、ニーズ調査や子ども・子育て支援計画の策定等を計画しています。

「大江町子ども・子育て会議」は、子育て当事者等の意見反映をはじめ、大江町における子ども・子育て支援施策の実施状況を調査審議し、特定教育・保育施設の利用定員を定める場合などに町長に意見を述べたりする役割があり、その条例が制定されました。

町道藤田堂屋敷線道路 改良工事請負契約が締結

左沢高校の信号から小見に向かう道路の改良工事入札が、8月27日に行われ、高子建設株式会社が4千326万円（税込み）で落札しました。藤田堂屋敷線の改良工事は3工区で行われ、平成25年度は、左沢高校前の信号から、西に255m進んだ場所までの工区です。道幅は8・5mで、歩道を含むと12mの幅があり、車も人も通りやすい道路に生まれ変わります。



広く整備される藤田堂屋敷線

豪雪による融雪被害と 7・18豪雨災害の復旧工事 のための専決処分報告

神通峡の遊歩道に架かる「おおくらさわ橋」が融雪により崩落した橋げたの撤去費と、7月の豪雨災害による北堰、南堰、小見の揚水ポンプの復旧工事費、萩野果樹園の汚泥撤去等、農地農業用施設の激甚災害の認定で復旧費合計1億1千170万円を既定の歳入歳出予算の総額に追加し、歳入歳出予算の総額を45億7千580万円とするもので、この専決処分を承認しました。専決処分により、災害の復旧が早く進みます。



萩野果樹園の汚泥

町道藤田大明神線 が開通

長らく切望されてきた国道287号線と国道458号線を連絡する町道藤田大明神線「左沢市街地循環道路（内回り線）」が完成し、秋晴れのもと、10月2日に交通安全祈願祭・開通式が開催されました。

県知事代理として村山総合支庁地域振興監の川越政之助氏をはじめ、大勢の来賓や地区民が出席し、完成を祝うテープカットの後、協力いただいた地区民とともにゆつくりと新しい道路を歩きました。



町道藤田大明神線開通式

写真で見る 7・18 豪雨災害

7・18 豪雨災害地視察

7月18日の豪雨災害をうけ、被害が大きかった柳川、沢口、貫見、大久保、久保、荻野の各地区と小見地区の水田の揚水ポンプ場の被災状況を視察してきました。この日は、吉村美栄子山形県知事の被災地区訪問とも重なりましたが、8・6災害以来の大災害となる7・18豪雨災害の被害状況を目の前にし、県出の国会議員に「激甚災害」適用を求めなければならぬと実感しました。



全国町村議会議長会様
北海道町村議会議長会様
山形県町村議会議長会様 より
お見舞いをいただきました。

私もひまわり



伏貫 照夫
(美郷区)

縁あって山形に移り住んで、大江町に住まいを構えて6年になります。

私は九州育ちで、正直このような雪深い土地で暮らすことになるとは考えてもいませんでした。

冬になれば朝起きて雪かき、寝る前に雪かきの生活ですが、達成感があり楽しんでやっています。

冬場の暖をとるため、ストーブ用の薪づくりは一年を通しての仕事ですが、町内のいろいろな方に薪を分けていただき感謝しています。

さくらんぼ、もも、ラフランス、りんごなど大江町の季節の果物は九州の知り合いにもおいしいと大

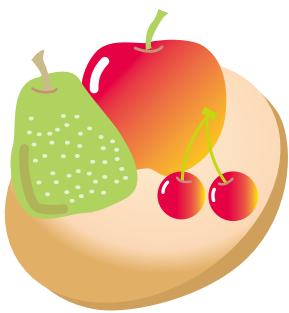
変喜ばれています。

仕事で農家の皆さんにお世話になっていきますので、大江町のおいしい農産物をたくさんの人に食べてもらいたいと思っています。

また、大江町に住み、地域の顔の見えるつながりの中で子どもを育てることができ、良かったと思っています。

学校では地域の特色ある授業や行事をしていただいで感謝しています。

子どもにとってのふるさとは大江町なので、ふるさとの素晴らしい点を子どもと一緒に私も学んでいけたらと思っています。



議会の動き (平成25年6月～9月)

6月

- 18日 広報常任委員会
- 21日 全員協議会懇談会
- 24日 議会運営委員会
- 28日 広報常任委員会
- 第1回臨時会

7月

- 3日 西村山地区議長会議員研修 (河北町)
- 5日 広報常任委員会
- 12日 広報常任委員会
- 18日 大雨による災害発生・町災害対策本部設置

8月

- 22日 三県合同 町村議長局長中央研修
- 26日 全員協議会
- 27日 議会運営委員会
- 28日 真室川町議会特別委員会視察来町

9月

- 5日 第3回定例会(13日)
- 13日 広報常任委員会
- 18日 広報常任委員会
- 25日 広報常任委員会
- 27日 村山地方町村議長会議長会合同研修

編集後記



このたび、2年に1度の議会の構成替えて、副議長ならびに各委員会の委員が新しくなりました。この議会広報常任委員会も新しい委員を迎え、より一層、議会と町民皆さまの距離が近くなり、親しみのもてる、わかりやすい議会広報紙作りをしていきたいと思っています。そして、この構成替えて、なぜかパソコンが大の苦手で手書きの得意な私が委員長になってしまいました。副委員長、委員の皆さまに協力してもらいながら頑張って取り組んでいきたいと思っております。2年間よろしくお願ひ致します。

(記・安食幸治)

【発行責任者】

◆議長 小野 祐一
◆【大江町議会広報常任委員会】

- ◆委員長 安食 幸治
- ◆副委員長 宇津江雅人
- ◆委員 菊地 勝秀
- ◆委員 古城 紀夫